臨 牀 叢 談

喉頭結核療法ノ比較研究

Prof. Dr. W. Okada: Die vergleichenden Untersuchungen der

Behandlungsmethoden der Kehlkopf tuberculosis,

醫學博士 岡 田 和 一 郎

喉頭結核ヲ治療セシメン爲メノ治療法ハ當局者タル實地家タル者ハ最も深く且ツ最も廣ク周到ナル注意ヲ拂ツテ之レニ着手セザルトキハ到底其目的ヲ達シ得ルモノデナイ、ソレ故ニ余ハ最近三例ノ喉頭結核ノ治療例ヲ實驗シタカラ之レニ使用シタル治療法ニ就テ五ニ比較觀察ヲナシテ其長所短所ヲ擧ゲ次デ其適應症ニ論及シテ實地家ノ參考ニ供セント欲シマスガ之ヲ記述スルニ先達チテ余ガ前年結核病學會特別講演トシテ喉頭結核療法ノ一般ニ就テ詳細報告シタコトガアルカラ之ヲ茲ニ記シ次デ本論ヲ記述スルコトトスル。

一、緒 言

本日私ガ此席ニ於テ自分ノ専門領域ニ屬スル喉頭結核ノ療法ニ就テノ特別講演ヲ爲スコトヲ得マシタノハ私ノ無上ノ光榮トスル所デゴザリマス、實ハ私ハ既ニ今ヲ距ル十八年前東京醫學會總會ノ宿題トシテ一回本問題ニ就テ稍々詳細ニ報告致シタ事ガアリマス當時ハ尙ホ喉頭結核ニ果シテ原發的ノモノアルヤ否ヤガ疑問ニ屬シテ居ツタ時代デアリマシタカラ先ヅ古來ノ文獻ヲ集メ之レニ私ノ經驗ヲ加ヘマシテ原發性喉頭結核ハ續發性ノモノニ比スレバ甚ダ稀有デハアルガ併シ其實在ハ決テ疑フベキ要ナキヲ斷定致シマシテ次デ又當時喉頭結核ノ豫後ハ尙ホ餘リニ不良デアツテ就中其絕對ニ不治デアルヲ主張シタ學者モ少クナカッタノデ、コノ喉頭結核ノ豫後特ニ治療ノ治療的效果ニ就テノ古來ノ文獻ヲ集メ之レニ自分ノ實驗例(確實ニ治療シタル者四例)ヲ加ヘテ一定ノ條件ノ下ニ在ル者ナラバ、之レニ一定ノ治療ヲ施セバ必ズ、其治療可能ナルヲ指摘致シマシテ後チ古代ヨリ其當時ニ到ル迄ニ世界各國ニ於テ使用サレマシタル喉頭結核ノ療法ヲ殆ンド其全部ヲ擧ゲマシテ之レニ批評ヲ加ヘ、結論ト致シマシテハ輕度ノ淺在潰瘍若クハ所謂加答兒性喉頭結核ハローゼンベルク氏ノ「メントール」ヲレール油ノ局所應用ニテ治療若クハ輕快シ得ベク又之レニテ治セザル者若クハ稍々深キ潰瘍ハ乳酸ノ局部塗布或ハ時トシテヘーリング氏ニ從

ヒ先づ局部搔爬術ヲ施シ後乳酸塗布ニテ治癒若クハ輕快シ得ベク又浸潤ノ甚シキ場合ニ亂截法ヲ併用スルコトアルモ切斷法ハ概シテ之ヲ實用セズト述ベ、且ツ「ペルバルサム」蒸汽ノ吸入「チルトホルムーヨドール」吹入等モ時トシテ有效デアルト述ベテ置キマシタガ、其後ノ十八年間ニハ一面ニ於テハ結核ニ對スル一般的研究ノ著シク進歩シタノト他ノ一面ニ於テハ種々ノ化學的療法、理學的療法並ニ手術的療法ノ大ニ追加改良サレタルトニ依リマシテ現今デハ第一ニ豫後ト定ノ方針モ前日ニ比シテ一層精確トナリ第二ニ療法實施ニ及ンデ材料選擇ニ一層注意ヲ深フシ第三ニ種々ノ異リタル治療法ヲ種々ノ適應症ニ應用スルコト等ヲ勵行スルコトナリシ爲メ其治癒例ガ前日ニ比シテ著シク増加致シマシタ。

尤モシュロツテル氏ガ伯林ニ開カレタル第一回萬國結核豫防會(千八百九十九年)即チ私モ之レニ出席シマシタ會ニ於テ喉頭結核ノ治癒可能説ヲ論述シタトキ喉頭結核治癒ノ定義トシテ次ノ五ヶ條ヲ指摘シマシタ。

第一、全身狀態佳良ニシテ特ニ體重ノ増加

第二、完全ニ職業ニ從事シ得ルコト

第三、理學的徵候トシテ唯治癒ニ一致スル變化即チ肺ノ硬化喉頭内ノ癰痕等ヲ觀ルノミニテ他ニ病的變化ヲ認メナイ

第四、結核菌ノ全然消滅

第五、完全ナル治癒ハ實際上尙ホ甚ダ稀有ナルヲ以テ眞實ノ治癒ハ數年間觀察シテ之ヲ證明スルヲ要ス

之レニ輓近ノ進歩シタル診斷法即チ所謂特異性反應生物學的免疫力ガ絕對ニ恢復シテ「ツベルクリン」反應ノ全然缺如スルヲ認定スルコトヲ加ヘテ初メ眞正ノ治癒ガ決定サル、者デアリマスカラ此意味ニテ喉頭結核ノ治癒ヲ索ムルナラバ遺憾ナガラ現今尙ホ未ダ治癒例ノ甚ダ多キヲ以テ誇ルコトガ出來マセンガ、併シ乍ラ輕快ト看做スベキモノデアツテモ患者ノ全身狀態ガ著シク恢復シテ喉頭ノ局部ニ於ケル浸潤潰瘍等ガ癰痕ヲ以テ治癒シタノヲ喉頭鏡下デ證明シタル者ヲ治癒ト假定シテ計上致シマスナラバ其治癒例ハ確實ニ増加シテ居リマス、殊ニ近時「レントゲン」線深部療法ガ喉頭結核ニ應用サル、ヨウニナツテ海外ニ於テハクラインシュミット、リツクマンベック等諸氏ノ報告アリ本邦ニ於テハ、愛知醫科大學ノ田村八木澤小林諸教授ノ報告東北帝大醫學部和田教室ヨリノ報告等アリマスガ、コノ療法ヲ適宜ニ應用シテ治癒例ノ著シク増加シタノガ事實デアリマス。只今ハ私等ノ實例ヲ報告スルノガ目的デナイカラ之ヲ全部省略致シマスガ兎ニ角十八年前ニ治癒例四人ヲ計上シマシタガ其後ノ期間ニ確實ニ全治ト診定シタ者十四人ト輕快ナレドモ喉頭痛去リ喉頭鏡下ニ浸潤モ潰瘍モ證明サレナイヨウニナツテ轉地セシメタ者五十餘名アリマス、今ニ是等ノ事實ヲ十八世紀ノ末ヨリ十九世紀ノ初メニ掛ケテ有名ナルラスカール、ハイン

ツエ氏ニ依リ喉頭結核ノ不治説ガ唱ヘラレ當時マイラントニ開カレマシタ第一回萬國喉頭病學會ニ於テモ又其翌年ロンドンニ開カレタル萬國醫學會ノ耳鼻喉科分科會ニ於テモ共ニ喉頭結核ノ不治ガ承認サレタルノ事實ニ對照致シマスレバ蓋シ今昔ノ感ニ堪ヘナイ次第デゴザリマス。是レヨリ喉頭結核療法ニ就テ申述ベルニ先達ツテ喉頭結核治療ノ效果及ビ豫後ニ就テ一言申上ゲテ置キマス。

二、喉頭結核治療ノ效果及豫後

喉頭結核ノ治療法ガ如何ニ良ク改良サレテモ又如何ニ進歩ノ實ヲ擧ゲマシテモ現今デハ遺憾ナガラ喉頭結核ノ全部ヲ治癒セシメ得ル者デナイコトヲ御承知ヲ願ヒマス。原發性喉頭結核ハ其早期ニ於テ其治療ヲ施セバ其豫後ノ佳良ナルハ素ヨリ論ノナキコトデアリマスガコノ原發性ノモノハ續發性ノソレニ比スレバ極メテ稀有デアリマシテ數年間一例ニモ遭遇セナイカモ知レナイ位デアリマス、ソレ故ニ私共ノ日常遭遇スル喉頭結核ハ殆ンド其全部ガ肺結核ノ續發症ト認メテモ差支ナイ位デアリマス、然カモソノ大多數ハ肺結核ノ末期ニ續發スルモノデアリカラ、肺結核患者ニ喉頭結核ノ續發ヲ觀ルト云フコトハ往々肺結核ノ末期ヲ意味スルヨウニモ理解サル、様デアリマス。ソレ故ニ如斯肺結核ノ末期ニ續發シタル喉頭結核若クハ甚ダ増進シタル全身結核ノ局部症候トシテ現ハレタル喉頭結核ニ對シマシテ私共ハ如何ニ優秀ナル治療法ヲ試ミテモ又如何ニ多大ノ努力ヲ拂ヒマシテモ終ニ治療ノ目的ヲ達シ得ナイノハ素ヨリ當然ノコトデアリマス。又中ニハ肺結核ノ方ハ益々増進スルモ喉頭結核ノミハ其局所療法ニテ輕快若クハ治癒ニ赴クコトガ屢々ナイデハナイガコレトモ患者自身ノ運命ニ向ツテハ大ナル差異ガナイノデアアル、ソコデ私ハ喉頭結核ノ治療ヲ試ムルニ當リテハ先ヅ全身及ビ局所ヲ精細ニ調査シテ第一種「治癒ヲ期待スベキ喉頭結核」ト第二種「不治ト認ムベキ喉頭結核」トヲ斷然區別シテ其局ニ當ラネバナラナイ、換言スレバ治療ニ奏效ノ見込アル者ト決シテ其見込ノナキモノトヲ豫メ決定シテ治療ニ從ハネバナラナイト信ジマス。而シテ私ハ先輩ノ諸説ト自分ノ經驗トニ依リマシテコノ二種類ヲ區別スル標準トシテ次ノ八ヶ條ヲ提案致シマス。

(一)結核ノ種類 (イ)臨牀的 第一種 狼瘡、結核腫、局部浸潤、限局セル肉芽竝ニ潰瘍。

第二種 潮濕性浸潤竝ニ潰瘍、軟骨膜炎。

(ロ)病理的 第一種 増殖性(プロリフェラチーフ)。

第二種 分泌性(エキスグダチーフ)。

(二)結核ノ居所

- 第一種 喉頭内結核即チ假聲帶、眞聲帶モルガーン氏竇、後壁。
第二種 喉頭外結核即チ會厭軟骨、會厭破裂軟骨、破裂軟骨部。

(三)發生ノ順序 第一種 原發性

第二種 續發性

(四)身體抵抗力ノ強弱 第一種 生物學的免疫力 (Immun-biologische Kraft) 卽チ結核菌若クハ其毒素ニ對スル抵抗力ノ強キ者、「ツ

ベルクリン」反應ノ局所ニ強クシテ全身ニ弱キ者。

第二種 同反應ハ全身ニ強クシテ局所ニ弱キ者。

(五)全身狀態 第一種 無熱若クハ微熱、食慾佳良、榮養佳良、肺症輕微。

第二種 熱型ノ惡キ者、食慾不良、衰弱、肺結核増進。

(六)遺傳關係 第一種 遺傳關係ナキ者。

第二種 遺傳關係ノアル者。

(七)喉頭結核ト咽頭トノ關係 第一種 咽頭壁、舌根等ニ蔓延セザル者。

第二種 (一)咽頭側壁殊ニ側索ヲ侵シ潰瘍ヲ作ルトキハ嚥下痛最モ甚シ (二)軟口蓋ヲ侵ストキハ嚥下痛ノ外ニ

飲食物鼻内逆流ヲ來スコトアリ (三)會厭軟骨ヨリ舌根ヲ侵ストキハ嚥下痛ノ外ニ誤嚥症ヲ來スコトアリ

(八)喉頭結核ト「ヒステリー」症 第一種 「ヒステリー」ノ如キ神經症ノナキ者。

第二種 「ヒステリー」ニ罹レル者ハ乾咳頻發シテ局部ヲ増惡シ又稀レニ恐怖ノ爲メ嚥下ヲ忌避シテ衰

弱ス。

上記ノ八ヶ條ノ注意點ニ依ツテ凡ソ總テノ喉頭結核ノ良否卽チ豫後ノ善惡ヲト知スルコトガ出來マス就中私ハ自分ノ立脚地ヨリ考ヘマシ
テ喉頭結核ノ種類トソノ局所トニ重キヲ置キマス、特ニ諸君ニ向ツテ喉頭結核ノ治癒例ノ向上ヲ希望セン爲メ全身症狀ノ尙ホ甚シク増進セ
ザル内ニ喉頭局所ノ狀況ニ一層深キ注意ヲ拂ハレテ治癒ノ見込ミアル稍々良性ノモノヲ徒ラニ逸スルヲナキヨウニ懸念サレンヲ切ニ希望
スル次第デゴザイマス。喉頭結核ノ種類ニ種々ノ區別ガアリマスガ私ノ經驗ニ徴シマスレバ喉頭内ニ占居シテ居ル増殖性卽チ Proliferativ
ノ者喉頭後壁ヨリ出タル肉芽腫若クハ浸潤(第一圖)、モルガン氏竇粘膜炎出症トシテ出現スル結核(第二圖)、假聲帶或ハ眞聲帶等ヨリ發生セ
ル結核腫(第三圖)等ハ手術的療法ニテ又「レ」線深部療法ニテモ殆ンド確實ニ治癒セシムルコトガ出來マス、加之潰瘍デモ假聲帶若クハ眞聲
帶ニ限局セル小キ者(第四圖)ナレバ局所療法デ治癒セシメルコトガ出來マス反之會厭軟骨、披裂會厭皺襞ニ及ブ蔓延セル潰瘍デ膿性分泌ノ

多キ者ヤ左右ノ眞竝ニ假聲帶全部ニ亘ル廣キ潰瘍ヲ分泌ノ多イモノ(第五圖)等ニハ現今ノ所ニテハ局所療法デ之ヲ治癒セシムルコトガ殆んど不可能デアリマス、ソレ故ニ肺結核患者ノ治療經過中ニ音聲ノ異常或ハ喉頭痛特ニ嚥下痛ヲ來スコトガアツタラバ直ニ喉頭検査ヲ勵行シテ第一ニ喉頭ニ續發結核ノ發生セシヤ否ヲ檢定シ第二ニ其第一種ニ屬スルヤヲ診定シテ若シ當該患者ノ喉頭結核ガ幸ニ第一種即チ治癒ノ見込アル者ト決定セバ之レニ對シテ時代最良ノ治療進進の療法ヲ試ムルコトヲ意ツテハナリマセヌ、而シテ當該喉頭結核ガ不幸ニシテ第二種即チ不治ト認ムベキ者デアツタナラバ吾人ハ之ヲ如何ニ處置スベキ乎ト言フニ假令ソレガ不治的ト決定シテモ之ヲ放任スルハ人道デナイ仁術デナイ況ヤ如斯患者ハ其大多數ハ劇甚ノ嚥下痛ヲ有スルノヲ常トシテ居ルノデ之ヲ放任セバ終ニ餓死スル恐レモアルノデアアル、之ヲ放任坐視スルコトハ絕對ニ之ヲ許サナイノデアアル、又況ヤ如斯患者ノ排泄スル分泌物ハ公衆衛生上最モ危險デアアルノデコノ意味カラモ醫師トシテ之ヲ放任スルコトヲ許サマセヌ、如斯患者ニ遭遇シタトキハ速カニ之ヲ隔離シテ適當ノ病院ニ收容セシメテ時代最良ト認メラレタル對症療法ヲ施シテ患者ノ苦痛ヲ去ルコトニ努力シ次デ之レニ向ツテモ亦患者ノ體力全身狀態ノ如何ヲ顧慮シツ、適當ナル療法ヲ施シテ萬一ノ僥倖ヲ期シ得ナイコトモナイ現ニ私ハ約十年前ニ絕對ニ不治ト認メタル者ニ氣管切開術ヲ施シテ殆んど再生の奏效ガアツテ今尙氣管「カニューール」ヲ入レタ儘ニテ職業ニ從事シテ居ルト云フ實驗例ヲ持ツテ居ル位デアリマスカラ最後迄勇氣ヲ鼓舞シツ、其局ニ當ラネバナリマセヌ。

三、全身療法ト局所療法ト對症療法トノ關係

喉頭結核ノ最多數ハ前述ノ通りニ肺結核ノ續發性デアリ又全身結核ノ一局所現症デアル以上ハ之ヲ治療スルニ當リテハ其當局者ハ全身療法ヲ度外ニ置テハナラナイ、古來結核ニ對スル特種ノ治療法ノ研究サレタルトキハ毎々ツレテ喉頭結核ノ治療ニ迄延長シテ時代ニ於ケル局所療法ト併用シテ其效果ヲ擧ゲンコトヲ計ラナイ者ハナカツタ、曾テランデレル氏ニ依ツテ「ヘトール」療法ガ鼓吹サレタルトキ、ランデレル「自身モ「ヘトール」ノ注射ト同時ニ「ヘトクレゾール」末ノ局所吹入或ハ一〇%「ヘトクレゾール」エーテル」、局所塗附ヲ施シテ八人ノ喉頭結核中五人ノ全治、二人ノ輕快、一人ノ有熱者ニ於テノ死亡ト云フ様ナ成績ヲ擧ゲテ報ジタノデ其後伯林ノクラウゼ、クットマン等ノ諸氏モ盛シニ「ヘトール」併用ノ有效ナルヲ唱ヘタコトガアツタ、併シ他ノ一面ニ於テハ肺結核ニ實用スルト同一ノ意味ニ於テ氣候療法或ハ氣候滋養療法ヲ嚴重ニ併用セネバ局所療法ノミニテハ決シテ其目的ヲ達シ得ル者デナイト主張スル者ガ出來テ喉頭結核モ亦タ肺結核ニ適當ナリト選定サレタル療養所ニ於テ時代相當ノ局所療法ガ遺憾ナク遂行サレテ初メテ治療ノ目的ガ達セラレ、モノデアルト主張サル、様ニナツテ來タ、ガ併シ近來ニ到リテハ喉頭結核ノ治癒ハ患者ノ免疫生物學的抵抗力ノ増進ニ依ルモノデアルトノ考ニテ或ハ「ツベルクリン」ノ正規的注射ヲ施ス者(Burnha)或ハ全身殊ニ胸部ノ日光浴ヲ局所療法ノ有效的ニ應用スル豫備行爲トシテ勵行スルコト(Blumenfeld)又「レント

ゲン線ヲ使用シテ假令ソノ結核ヲ治癒セシムベキ效力ナシトスルモ間接ニコレニ依テ生體ノ反應力ガ増進サレ一般狀態ガ佳良トナツテ從
ツテ潰瘍面ノ分泌ガ減ジ唯浸潤ノミガ殘ル様ニナルノデ於之手術的療法等デ治癒セシメ得ルコトナルトノ考ニテ先ヅ「レ」線ヲ使用スル者
(Backmeister u. Rickmann)モアリ其他高山日光直射法ヲ稱用スル者「レ」線深達療法ヲ賞用スル者等續々輩出シテ喉頭結核療法ニ一般療
法ノ必要ナルコトハ益々各方面ヨリ裏書きサル、様ニナツテ來タ、ソレ故ニ私モ亦是等先輩ノ唱道シタル一般療法ノ併用ニ向ツテハ何等異
議ヲ唱ヘルモノデハアリマセンガ併シ喉頭結核ノ肺結核ト異ル所ハ其解剖的所在ガ異ル點ニ在ルノデアル、喉頭ハ稍々外界ニ近キ所ニアル
管腔デアルノデ吾人ハ間接ニ喉頭鏡ニテ又直接ニ直達法若クハ懸垂法ニテ喉頭ヲ視ルコトモ出來又タ消息子ニテ觸レルコトモ出來ルモノデ
アル、ソレ故ニ局所療法トシテ有效ト信ジタナラバ手術的療法デモ藥物的即チ化學的デモ又理學的療法デモ之ヲ思フ儘ニ行フコトガ出來ル
ノミデナク其奏效ノ有無ヲ隨時鑑視シ且ツ判斷スルコトガ出來ルモノデアリマスカラ私等喉頭科專門家ハ主トシテ喉頭結核ニ對シテハ局所
療法ニ重キヲ置キテソノ能率ノ向上ヲ研究スルコトトナシテ居リマス、ソレ故ニ私ハ本日ノ講演ニ於テモ全身療法ノ方ハ之ヲ田澤有馬兩博
士ノ御講演ニ讓ルコトト致シマシテ主トシテ局所療法ニ就テ申述ベルコトト致シ之レニ加ヘテ喉頭結核患者ノ最モ屢々訴ヘテ而シテ患者ノ
運命ノ上ニ重大ナル影響ノアル諸症候例之喉頭痛特ニ嚥下痛、誤嚥症、呼吸困難症等ニ對スル對症療法ニ就テ申述ベテ諸君ノ御參考ニ供シ
タイト存ズル次第デアル。(未完) (圖略)